

6月のおしゃべりお散歩会「箱崎宮のあじさい苑」編



ようやく梅雨に入り、雨が続けば あじさいがしっとり映える風情ある季節となりました。2010年6月16日（水）前日までの雨は嘘のように太陽がサンサンと降り注ぎ、色とりどりのあじさいもちょっと喉が渴いてしまったようです。

箱崎宮本殿前に集合した9人は、待ち時間に、本殿で御参りを済ませた方や、すでにおみくじを引いて大吉を当てた幸先の良い方も。すっかり顔なじみの方や今回初参加の方も交えて、最初に自己紹介をして開始。ここ箱崎宮のあじさい園では、6月の間、1700坪の敷地に約3500株のあじさいが色鮮やかに咲き誇ります。

わずかな晴れ間を狙って、苑内はカメラを持った人がた〜くさん。お散歩会メンバーも今度フォトコンテストしようか？なんて案が出ましたよ（笑）。

紫陽花って本当にたくさん種類があるんですね。この機会に皆さんもインターネットで紫陽花を調べてみてください。面白いんですよ〜。



さて風情があるので、「ではここで一句〜」といったセンスはなく、代わりにここで1つあじさいにまつわるウンチクを。

あじさいの一般に花と言われている部分は装飾花で、本来の花は中心部で小さくめだたないところ、花びらに見えるものは萼（がく）なんですね。花の色素は、なすの紫色と同じアントシアニンを含むので、土壌のpH等に影響されます。なすも漬物にして真っ青になったり、酢漬で赤紫になったりしますよね。そんな話をしていると、さっそく「会長が、「じゃあ、あじさいが咲いている根元の土に酢をかけたら赤くなるかな？でもその前に花が酸でダメになっちゃうかなあ、あっはっは〜。」なんて言い出しました。実験好きな私としては気になってうずうずするところ。我が家の玄関先にも3種類のアジサイが色よく頬を染めていますが、さすがに酢をかける勇気がないので、どなたか真相をつきとめた方あれば教えて下さい（笑）。



・・・そこでさらに調べてみると、一般に「土壌が酸性ならば青、アルカリ性ならば赤」と言われますが、土壌の pH（酸性度）は花色を決定する要因の一つに過ぎないそうです。含まれる他の色素によっては青になり得ないものがあったり、仮に酸性土壌であっても地中のアルミニウムの量が少なければ花が青色になることはない、と。また、開花からの日数によって様々に変化するので初めは青かった花も、咲き終わりに近づくにつれて赤みがかかっていく。まさに、「七変化」です。

しかもあじさいは毒性も持っているので、食べると中毒を起こしてしまうそう。そういえば昔、あじさいの葉っぱを天ぷらにして食べて中毒を起こした人がいるというニュースを聞いたことがあります。

キレイな装いで毒を持っているなんて～。魔の魅力?!

そんな目であじさいを眺めると、何だか妖艶に見えてしまいます・・・。

そんなあじさいの魅力を極めた1日でした。（文責：管理栄養士 泉田）



7月は食事会、8月は盆休みのため、お散歩会はお休みです。

次回は9月(詳細は未定です)。

予定が出次第、待合に掲示しますのでご覧下さい。

※お知らせ:参加者の方に限り、写真を注文できるようにしました。1枚30円で承ります。

ご希望の写真がある方はスタッフまで。

福岡市南区平和1-4-6
発行：南昌江内科クリニック
歩の会事務局
TEL 092-534-1000

